

教 科	国 語		科 目	論理国語	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 論理国語（東京書籍）				
副教材（出版社）		新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版（東京書籍）				
授業の概要		1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。				
授業の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。				
年 間 学 習 計 画		学 習 内 容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	・論理とは何か（論理の力） 1 広がる風景 ・対話とは何か ・論理の力を鍛えよう 2 考える手がかり ・少女たちの「ひろしま」 ・つなげる力（論理の力）、論証する力（論理の力）、要約する力（論理の力）、言葉の扉① 3 人間と知性 ・学ぶことと人間の知恵 ・資料を整理し、テーマで吟味しよう		・言葉と言葉が的確に関連し合う「論理」の重要性を理解する。 ・筆者の考える「対話」の意義について理解を深める。 ・筋道立っている文章に必要なものを理解する。 ・筆者の主張を踏まえ、戦時下の人々の日常やその時代の社会と自分との接点について考えを深める。 ・問いと答えの構造に注目して、中心的主張を的確に捉える。 ・本来とは異なる意味で用いられやすいことわざや慣用句について理解する。 ・学ぶことの意義について、筆者の主張を「コンピューター」と「人間」を比較したうえで読み取る。 ・資料を整理して立場の違いによる主張や論拠の違い、問題意識の違いなどを対比的に検討する。		
	2 学 期	・ラップトップを抱えた「石器人」 ・文章を読み比べるために 4 現実の中で ・思考の肺活量 ・考える楽しみ① 5 ものの見方 ・弱肉強食は自然の摂理か ・複数の「わたし」 ・質問する力（論理の力）		・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ・文章の読み比べ方を学び、複数の文章を比較して考えを深める。 ・論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。 ・筆者の主張と例示の関係を理解する。 ・論理的文章の内容を検討させ、観点を押さえた適切な質問を考える。 ・言葉の持つ可能性と限界について考える。 ・実験結果と筆者の主張を整理して、論理の展開方法を理解する。 ・筆者の主張を読み取ったうえで、その根拠の妥当性を検討する。		
	3 学 期	6 はたらくよろこび ・はじめに「言葉」がある、 ・楽に働くこと、楽しく働くこと ・鉄、千年のいのち ・言葉の扉②		・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・「働くよろこび」について、筆者の考えを踏まえたうえで自分の考えをまとめる。 ・新しい抽象概念を表すカタカナ語について理解を深める。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。	
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	国 語		科 目	国語表現	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		国語表現（大修館書店）				
副教材（出版社）		基礎から始める国語の表現力トレーニングノート（大修館書店）				
授 業 の 概 要		1 話すこと・聞くこと、書くことの活動を通じて、豊かな言語感覚を身に付けさせる。 2 表現のための語彙を身に付けるために、小テストや語句テストを行う。				
授 業 の 目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 伝える、伝え合う ・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操 ・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう ・表現への扉②伝え合いのヒント 2 働く人にインタビュー 3 言葉と出会う ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い		・取り上げる内容や話し方を工夫して、わかりやすい自己紹介をする。 ・聞くことと話すことを見つめ直し、積極的に対話する姿勢を身に付ける。 ・他者に伝えることを意識したわかりやすい文章を書く。 ・5W1H が明確な文章を書く。 ・事実と意見を区別して文章を書く。 ・文章を読んで、よりよいコミュニケーションの方策について思案する。 ・聞きたいことを明確にし、質問の方法や話し方を工夫しながらインタビューをする。 ・聞き取った内容を整理して、効果的な伝え方を工夫して文章を書く。 ・標記の決まりを意識して、正しく書く。 ・漢字や慣用表現を正しく使う。 ・係り受けについて理解する。 ・文末表現について理解する。 ・敬語について正しい理解を持つ。 ・話し言葉と書き言葉の違いとその使い分けについて理解する。 ・和語、漢語、外来語のニュアンスの違いとその使い分けについて理解する。		
	2 学 期	1 言葉と出会う ・わかりやすい文を書く ・文のつながり方 ・表現への扉①身近な言葉を見つめよう 2 読書のひろば ・読書への誘い ・ビブリオバトルをしよう 3 魅力的なポスターを作ろう 4 会話・議論・発表 ・相手や場面に応じた会話 ・建設的な議論の進め方 ・スピーチをしよう		・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・句読点の適切な使い方を理解する。 ・接続表現の種類と働きを理解する。 ・文脈による文のつながりを理解する。 ・言葉に関する文章や資料を読んで、表現活動を豊かにする。 ・読書に興味を持ち、意欲的に読書に取り組む。 ・自分のお気に入りの本の魅力について聞き手を意識して話す。 ・読み手の心を動かせるような効果的なコピーを考える。 ・伝えたいことが効果的に伝わるように、レイアウトやデザインを工夫する。 ・場面にふさわしい言葉遣いを考える ・適切な言葉遣いでロールプレイをする。 ・話し合いの段階を意識して対話することで、建設的な議論をする。 ・話す順序を意識したわかりやすいショートスピーチをする。 ・聞き手として話を聞く態度を養う。		
	3 学 期	1 会話・議論・発表 ・プレゼンテーションの工夫 ・表現への扉⑥コミュニケーションを豊かに 2 無人島で生き残れ 3 言葉で遊ぶ 4 日常生活の正しい過ごし方		・テーマに合わせて、資料や発表の準備を行う。 ・発表に聞き手の興味を喚起するような工夫をする。 ・コミュニケーションに関する文章を読み、話すこと・聞くことについて見つめ直す。 ・他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を適切に述べる。 ・言葉遊びを通じて、語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 ・読者を意識して、物事の手順をわかりやすく伝えさせる。 ・接続表現を効果的に用いる。		
	観 点 別 評 価	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組もうとする態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしているか。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。		
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりとともに、3つの観点をABCの3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	公 民		科 目	公 共	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新版 公共（数研出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		教科書に沿って、現代の諸課題の概念や理論について理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会の諸課題の解決へ向けた認識を深める。				
授業の目標		人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代思想 第2節 現代の諸課題と倫理 第5章 現代の経済社会 第1節 経済のしくみと市場		・社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、先人の知恵や取り組みなどを踏まえ、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが重要であると理解する。 ・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。		
	2 学 期	第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現 第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理 第4章 現代の民主政治 第1節 日本の政治機構 第2節 民主政治の課題		・少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることを理解する。 ・よりよい社会は、憲法の下個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。		
	3 学 期	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題 第3節 国際経済の動向		・主権国家が並び立つ国際社会がどのように成り立っているのかを理解する。また、国際社会や国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。		国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		数 学		科 目	数 学 A	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		最新 数学 A（数研出版）					
副教材（出版社）		パラレルノート 数学 A（数研出版）					
授業の概要		場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。					
授業の目標		数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのではなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学 習 内 容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率			・ 樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。 ・ 具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。		
	2 学 期	第 2 章 図形の性質 第 1 節 三角形の性質 第 2 節 円の性質 第 3 節 作図			・ 三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。 ・ チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・ 円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・ 空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。		
	3 学 期	3 章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 1 次不定方程式 3 記数法 4 座標の考え方 5 ゲームパズルの中の数学			・ 整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって2つの数の最大公約数を求め、不定方程式の1つの整数解を求められるようにする。2進法で表された数を 10 進法に直し、また、その逆をできるようにする。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	場合の数の性質、図形の性質と確率について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	理 科		科 目	生物基礎	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 生物基礎（数研出版）				
副教材（出版社）		スタディアップノート 生物基礎（数研出版）				
授業の概要		教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	序章 第 1 章 生物の特徴 第 2 章 遺伝子とそのはたらき		・生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 ・生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 ・遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 ・生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。		
	2 学 期	第 3 章 ヒトの体内環境の維持 第 4 章 植生の多様性と生態系		・多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境（体内環境）であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 ・植生について、その構造や遷移について学習する。		
	3 学 期	第 4 章 植生の多様性と生態系		・地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 ・生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。		身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。 実験計画に沿った観察・実験の計画を具体的に立て、予想される結果と実際の結果の検証を行うことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ			・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・スポーツの発祥と発展について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ			・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・運動、スポーツの学び方について学ぶ。		
	3 学 期	7 陸上競技（長距離走） 男子 5000m と女子 3000m の記録測定 8 体育理論Ⅲ			・ペースを調整しながら長い距離を走ることによって体力を高め、自己記録を更新できるように挑戦する。 ・運動、スポーツの学び方について学ぶ。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。			自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		保健体育		科 目	保 健	単位数	1
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）					
授業の概要		保健の見方・考え方を働かせながら、合理的、計画的な学習過程を通して、日頃の生活の中で自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための実践力を身に付ける。					
授業の目標		1 自他や社会の健康・安全のための課題を解決するために、思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 2 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	3 生涯を通じる健康 （1）ライフステージと健康 （2）思春期と健康 （3）性意識と性行動の選択 （4）妊娠・出産と健康 （5）避妊法と人工妊娠中絶 （6）結婚生活と健康 （7）中高年期と健康			・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりが関わっていることについて理解する。 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。		
	2 学 期	（8）働くことと健康 （9）労働災害と健康 （10）健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり （1）大気汚染と健康 （2）水質汚濁、土壌汚染と健康 （3）環境と健康にかかわる対策 （4）ごみの処理と上下水道の整備 （5）食品の安全性 （6）食品衛生にかかわる活動			・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理や安全管理をする必要があることを理解する。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、その防止や改善のための対策をとる必要があること、また環境衛生活動のしくみについて理解する。 ・食品の安全性を確保することの重要性や食品衛生活動のしくみについて理解する。		
	3 学 期	（7）保健サービスとその活用 （8）医療サービスとその活用 （9）医薬品の制度とその活用 （10）さまざまな保健活動や社会的対策 （11）健康に関する環境づくりと社会参加			・保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することや、医薬品の特性や使用方法について理解する。 ・健康を支える環境づくりについての課題を発見し、その解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。		
観 点 別 評 価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科B類型・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English Communication II（数研出版）				
副教材（出版社）		Blossom 2（文英堂）、全商英語検定試験問題集 1 級・2 級（実教出版）、英単語ターゲット 1200（旺文社）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	Lesson1 Why Don't You Come to School in Pajamas? Lesson2 Is Seeing Believing? Lesson3 Do You Get Enough Sleep? Lesson4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 学習内容についての問題演習		・高校 1 年生で既習の文法事項を復習しながら、海外のユニークな学校行事や芸術、睡眠についてなど、比較的身近な題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・受動態、関係詞、完了形、仮定法過去、SVO（O=wh-節）、SVO ₁ O ₂ （O ₂ =that 節）を理解する。		
		2 学 期	Lesson5 Universal Design: Convenient for All Lesson6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Lesson7 Learning from Nature Lesson8 The Wisdom of Preserving Food 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、社会福祉や技術革新、食文化などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・仮定法過去完了、分詞構文、進行形の受動態、SVC（C= 分詞）、SVOC（V= 使役動詞、C= 分詞）、未来進行形、完了形の不定詞 など理解する。	
	3 学 期		Lesson9 The Sharing Economy: Something for Everyone? Lesson10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 学習内容についての問題演習		・新出の文法事項や表現を学習しながら、経済や環境などの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・未来完了、無生物主語構文、複合関係代名詞、SVC（C=that 節）などを理解する。	
		観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現	
	語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。		本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、ペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。		英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	外 国 語		科 目	中国語入門	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		高校生からの中国語（白帝社）				
副教材（出版社）						
授業の概要		1 各レッスンでテーマに応じた文法事項を学び、読んだり書いたりして練習する。 2 中国語の決まりや文の形を正しく理解し身に付ける。				
授業の目標		1 ペアやグループ学習を通して、自分の考えを相手に正しく理解してもらえるよう、積極的に会話練習を行う。 2 中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	発音：母音 1 発音：声調 発音：子音 1 発音：母音 2 発音：子音 2 発音：母音 3 発音：母音 4 声調の発音 唐詩：春曉 第 1 課：私は高橋美恵です 第 2 課：私は希望高校の生徒です		・様々な種類の「発音」を学び、中国語独特の母音と子音の発音を身に付ける。 ・「声調」を学び、第一声、第二声、第三声、第四声、轻声の違いを聞き分ける。 ・唐詩を音読し、発音練習の総まとめをする。 ・「姓」と「叫」の使い方を学び、簡単な自己紹介をする。 ・数字と数え方、量詞「个」、「几」や「多少」の使い方を学び、自分の学校を紹介する。		
	2 学 期	第 3 課：私は東京に住んでいます 第 4 課：私は 6 時半に起きます 第 5 課：私は絵を描くのが好きです 第 6 課：自己紹介 第 7 課：どこで会いますか 第 8 課：希望高校へどう行きますか 第 9 課：いくらですか 第 10 課：どこに行きましたか		・家族の呼称、動詞「在」の使い方を学び、自分の家のことについて紹介する。 ・時刻の言い方、時間を表す言葉の順序を学び、一日の生活を紹介する。 ・「喜欢」の使い方を学び、自分の趣味や好きなことを紹介する。 ・年齢の聞き方や言い方を学び、自己紹介のまとめをする。 ・月、日の言い方や「在」の使い方を学び、待ち合わせの約束をする。 ・「怎么」＋動詞、所要時間の聞き方と言い方を学び、目的地までの行き方や所要時間を尋ねる。 ・「还是」、指示代名詞の使い方を学び、買い物ができるようにする。		
	3 学 期	第 11 課：中国に行きたいです 第 12 課：中国の友達への手紙 第 13 課：中国の文化・伝統・芸術に触れ、理解を深める。		・「了」、形容詞の反復疑問文を学び、行動や感想について話す。 ・「想」、動詞＋時間の長さについて学び、計画や希望を伝える。 ・手紙の形式、決り文句について学び、手紙を書く。 ・中国の文化・伝統・芸術に触れ、理解を深める。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。日本語との文構造、文化の違いに興味を持っている。		学んだ文法を使って、自分のことや考えなどを書くことができる。また、それらを応用して、まとまった文章を書くことができる。		コミュニケーション活動を意欲的に図ろうとしている。学んだ文法を積極的に使おうとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		家 庭	科 目	家庭基礎	単位数	2
学 年		2 年	類 型	地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）				
副教材（出版社）		家庭科ノート、調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会編）				
授業の概要		「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の自立と設計」「持続可能な消費生活・環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。				
授業の目標		人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 生涯を見通す		・ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 ・家族・家庭と社会の関わりについて理解し、男女が協力して、家庭を築くことの重要性について考察する。 ・自立した消費者として、経済生活をマネジメントする力を身に付ける。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動する。 ・健康・快適・安全な住生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。 ・ホームプロジェクトの計画を立てる。		
		第2章 人生をつくる				
		第9章 経済生活を営む				
		第10章 持続可能な生活を営む				
		第8章 住生活をつくる				
		○家庭クラブ・HPについて				
	2 学 期	第4章 超高齢社会を共に生きる		・ホームプロジェクトを各クラスで発表する。 ・超高齢社会の現状と課題について学び、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解し、子どもを産み育てることの意義について考える。 ・福祉や社会的支援について理解し、社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について考察する。 ・健康・快適・安全な衣生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。		
		第3章 子どもと共に育つ				
		第5章 共に生き、共に支える				
第7章 衣生活をつくる						
3 学 期	第6章 食生活をつくる ○調理実習（3回）		・健康・快適・安全な食生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。 ・自分らしい生活が実現できるよう、生活設計ができる。			
	第11章 これからの生活を創造する					
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	マーケティング	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		マーケティング（実教出版）				
副教材（出版社）		マーケティング準拠問題集（実教出版）				
授業の概要		経済のグローバル化や顧客のニーズの多様化など市場環境が変化する中で、顧客満足の実現、顧客の創造、顧客価値の創造などマーケティングの考え方の広がりに対応して、効果的にマーケティングを展開するために必要な資質・能力を育成する。				
授業の目標		1 マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年 間 学 習 計 画	1 学 期	学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
		第1章 マーケティングの概要		・マーケティングの意味と歴史、環境の分析・実行手順について理解する。		
		第2章 消費者行動の理解		・消費者の製品やサービスの購買意思決定過程を学び、それらに影響を与える要因を理解する。		
		第3章 市場調査		・市場調査の意義と手段について学び、実態調査の種類についても学ぶ。		
		第4章 S T P		・市場を細分化しマーケティングの対象である消費者を選択し、製品やサービスのイメージを整理する。		
	2 学 期	第5章 製品政策		・製品の捉え方について理解し、どのような製品を開発し、生産する計画をたてるか、一連の手順を理解する。		
		第6章 価格政策		・製品やサービスの価格設定に関する活動について学び、価格が企業の売上や利益に直結するものであることを理解する。		
		第7章 チャネル政策		・企業が消費者に製品を購入してもらうための販売経路について理解する。		
	3 学 期	第8章 プロモーション政策		・消費者の購買行動を促進する様々なプロモーションの種類と特徴について理解する。		
第9章 マーケティングのひろがり		・これまでのマーケティングの考え方を深め、様々な分野への応用やひろがりについて理解する。				
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業において考えられる事例と実際のマーケティングとを関連付けてビジネスの場面で役立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。		知識・技術を活用し課題を見つけ、企業活動の社会的影響を踏まえ、顧客の理解、市場動向マーケティング理論、データ、成功事例や改善事例などを科学的根拠により解決することについて考えている。		ビジネスを展開する力を向上させるために学ぶ態度や自己の役割を認識して当事者意識をもち、他社との信頼関係を構築して市場調査の実施からの各政策の企画、実施に責任をもって取り組んでいる。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	観光ビジネス	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		観光ビジネス（実教出版）				
副教材（出版社）		事例探求ワークブック観光・地域活性化（実教出版）				
授業の概要		1 地域と連携した活動を通して、地域に対する誇りと愛情を醸成し、地域活性化に対する使命感を持つ。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行う。				
授業の目標		1 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 ガイダンス (1) なぜ観光について学ぶのか (2) 伝統文化と異文化がもたらすもの 2 事例学習 (1) 寺や城に泊まれる (2) E－DMOでエコツーリズムを推進 (3) ガラス工芸で観光都市化		・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・企業の経営戦略や社会的責任、地域の現状や地域に対する経営者の思い等について理解し、地域への愛情と誇り、所属意識を醸成する。 ・県内で、新たな観光名所になる可能性のある身近な場所を発掘し、そこでの観光プランを立案する思考力を醸成する。 ・町全体の取り組む実践を知ること、地域に様々な要素が付加価値として生まれ、商品やサービスの充実につながる地域一体となった経済活動につなげられることを理解する。		
	2 学 期	3 ツアープランの作成 (1) 班別実習 (2) ツアープランのまとめ (3) 実態調査 4 事例学習		・身近な観光資源を調べることによってそれらの価値を知り、それらを活かす方法を話し合わせることで、観光資源の活用方法について理解を深める。 ・観光資源と観光政策に関する知識などを基盤として、消費者の動向、観光資源の活用や観光政策に関する具体的な事例など、観光資源の効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができる技術を習得させる。		
	3 学 期	4 事例学習 5 自己評価		・地域活性化等に関する取組事例から、地域の諸課題についての理解を深め、地域活性化へ向けた使命感を養う。 ・班別実習の成果を共有する。 ・一人一人が、自分だけの特別な経験を蓄積する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地域の現状や課題、地域に暮らす人々の現状を理解し地域活性化を担う使命感を持つことができるか。 自らの考えを他者に的確に伝えることができる。		実践的、体験的な活動を通して獲得した知見をもとに、地域に活力や魅力を与えるためには何をしなければならないか、自らのアイデアを持っている。		地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いについて理解しようとしているか。 積極的な態度でワークショップや実習に参加している。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	財務会計Ⅰ	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		新財務会計Ⅰ（実教出版）				
副教材（出版社）		完全段階式標準検定簿記問題集 1 級会計（東京法令出版）				
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期					
	2 学 期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産（当座資産） 第6章 流動資産（棚卸資産・その他の流動資産） 第Ⅱ編 貸借対照表 第7章 固定資産（有形固定資産） 第8章 固定資産（無形固定資産）		・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・貸借対照表の意味と役割を理解する。 ・貨幣性資産と費用性資産の概略を理解する。 ・当座資産の意味および種類を理解する。 ・棚卸資産の取得原価と費用配分の原則について理解する。 ・有形固定資産の取得原価の計算方法を習得する。 ・無形固定資産の取得原価の計算方法を習得する。		
	3 学 期	第9章 固定資産（投資その他の資産） 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権		・投資その他の資産の意味と種類および期末評価について理解する。 ・負債の意味と分類について、基礎知識を習得する。 ・引当金の意味と評価性引当金・負債性引当金の区別を明らかにし、流動負債に属する引当金を理解する。 ・株式会社の資本の意味と計算を習得する。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解する。 ・自己株式の取得・処分・消印の会計処理を理解する。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	「原価計算」とのまとめ取りにより、10月から3月まで実施する。 学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	原価計算	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		原価計算（東京法令出版）				
副教材（出版社）		最新段階式 簿記検定問題集全商 1 級原価計算（実教出版）				
授業の概要		製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標		1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第 1 章 原価の概念と原価計算 第 2 章 原価計算の特色と仕組み 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第 1 章 材料費の計算と記帳 第 2 章 労務費の計算と記帳 第 3 章 経費の計算と記帳 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第 1 章 個別原価計算と製造間接費の計算 第 2 章 部門別原価計算 第 3 章 総合原価計算 第Ⅳ編 内部会計 第 1 章 製品の完成と販売 第 2 章 本社・工場会計 第 3 章 製造業の決算		・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第Ⅴ編 標準原価計算 第 1 章 標準原価計算の目的と手続き 第 1 章 原価差異の原因別分析 第Ⅵ編 直接原価計算 第 1 章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第 2 章 短期利益計画への活用		・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の意義・目的・方法・手続き及び全部原価計算との違いについて理解させる。 ・固定費調整の意義・方法について理解させる。 ・直接原価計算が短期利益計画に有用な情報を提供できることを理解させ、損益分岐分析(CVP 分析)の方法を習得する。		
	3 学 期					
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術に加え、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身に付いている。		原 価 計 算 を は じ め て と し た 様 々 な 知 識 、 技 術 な ど を 活 用 し 、 理 論 や 企 業 活 動 の 流 れ な ど 科 学 的 な 根 拠 に 基 づ い て 工 夫 し 、 よ り 良 く 課 題 に 対 応 す る 力 が 身 に 付 い て い る 。		他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などの原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身に付いている。	
備考	「財務会計Ⅰ」とのまとめ取りにより、4月から9月まで実施する。 学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	ソフトウェア活用	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		ソフトウェア活用（実教出版）				
副教材（出版社）		情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報１級（実教出版） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集１級（実教出版）				
授業の概要		企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第１章	企業活動とソフトウェアの活用	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。		
		第２章	情報通信ネットワークの活用	・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する機器類の基礎的な利用方法や、障害等に対処するための基本的な技術を身に付ける。		
		第３章	表計算ソフトウェアの活用	・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。		
	2 学 期	第４章	データベースソフトウェアの活用	・リレーショナルデータベースの特徴や基本的な機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。		
		第５章	業務処理用ソフトウェアの活用	・それぞれの業務処理用ソフトウェアを活用することの利点と、各ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。		
	3 学 期	第６章	情報システムの開発	・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即死して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な子根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに１００点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	松山学Ⅱ	単位数	2
学 年	2 年		類 型	地域ビジネス科		
教科書（出版社）		学校設定科目「松山学Ⅱ」（松山商業高校）				
副教材（出版社）						
授業の概要		1 地域と連携した活動を通して、地域に対する誇りと愛情を醸成し、地域活性化に対する使命感を持つ。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行う。				
授業の目標		1 松山や愛媛の経済や観光、文化、歴史、産業などへの理解を深めさせるとともに、地域社会の現状や願いについて理解させ、地域の様々な課題について主体的に考察する。 2 観光産業や地場産業の振興などについて考えさせるとともに、地域活性化に寄与する具体的な実践活動を行わせることで、松山や愛媛の未来を担う人材として必要な能力と態度を育成する。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 ガイダンス (1) 「松山学」について (2) 「1000 日実習」 2 班別学習 【A 班】防災先進地域訪問と防災啓発活動の推進 【B 班】観光プランの立案と観光ツアーガイドの実践 【C 班】外国人観光客等おもてなし活動の実践		・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・企業の経営戦略や社会的責任、地域の現状や地域に対する経営者の思い等について理解し、地域への愛情と誇り所属意識を醸成する。 ・防災に関する地域の現状について、理解するとともに、地域の防災意識を高めるためにできることを考える。 ・県内で、新たな観光名所になる可能性のある場所を発掘し、そこでの参加・体験型の観光プランを考える。 ・外国人観光客等のおもてなし活動を実践するために必要な資料を収集し、それらを英語や中国語で紹介できるよう準備する。		
	2 学 期	2 班別学習 【A 班】防災先進地域訪問と防災啓発活動の推進 【B 班】観光プランの立案と観光ツアーガイドの実践 【C 班】外国人観光客等おもてなし活動の実践 3 「ふるさとふれあい塾」		・防災先進地域等を訪問し、防災に関する知識と技術を習得する。フィールドワーク等を行い、防災に関する地域の現状についての理解を深める。 ・保護者や学校評議員を観光客に見立て、企画した参加・体験型の観光プランに沿って、生徒が添乗員となりツアーガイドを実践する。 ・道後温泉周辺や近隣の観光名所において外国人観光客等のおもてなし活動を実践する。 ・松山の良さを再確認するとともに、ホスピタリティ精神を向上させ、松山の魅力を自信を持って案内できるようになる。		
	3 学 期	4 地域の諸課題 5 班別実習報告会 6 自己評価		・地域活性化等に関する取組事例から、地域の諸課題についての理解を深め、地域活性化へ向けた使命感を養う。 ・班別実習の成果を共有する。 ・一人一人が、自分だけの特別な経験を蓄積する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いについて理解しようとしている。 地域の課題を解決する活動や地域貢献活動を推進し、地域に活力や魅力を創出できている。		実践的、体験的な活動を通して獲得した知見をもとに、地域に活力や魅力を与えるためには何をしなければならないか、自らのアイデアを持っている。		積極的な態度でワークショップや実習に参加している。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					